

## 目標達成計画

事業所名 グループホームほぷらの家

作成日：平成 27 年 12 月 3 日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	1	現在の運営理念は、平成16年開設時のものである。全く理に反しているとは考えていないが、認知症対応型共同生活介護は地域密着型となり、その時々に対応した理念が求められていることから、見直したい。	地域密着型という認知症対応型共同生活介護は、グループホームの位置づけや担う役割が地域住民に見える形にするため、住民が気軽に入りし易い環境を作る。また、職員が持つ認知症や介護に関する知識・技術を地域住民に提供できるようにしたい。	左の目標を念頭に置き、まず、職員から運営理念の現行を提案して貰い、それを職員間で協議検討し原案を作成してから、取締役会に提出して、そこで最終的に決定したい。	平成27年12月末日まで。
2	33	重度化や終末期に向けた、利用者・家族・職員の共有した支援のあり方では、高齢者介護施設とはいえ、住み慣れたところで家族や職員に見守られて、終期を迎えたいところですが、本町の保健医療体制が整わない(医師不足)ため、利用者の重度化や終末期での医師の往診は不可能な状況にある。(町内の医療機関は現在、標茶町立病院だけで、救急指定病院となっている。)	この件については当ホームとしても構築したい考え方である。以前から標茶町立病院に要請、懇願した経過があるが、救急指定病院となっており、医師不足もあり往診が必要な状況でも往診が出来ない。また、訪問看護ステーションも存在するが、看護師の確保が難しく、24時間体制を構築できないことから、看護師の派遣が困難である。	ホームとしても重度化や終末期のあり方を検討し、家族と相談しているが、当分の間は目標達成の見通しはついていない。標茶町行政としても、医師確保のため首長である町長はじめ、町立病院長が再三大学病院医師関係機関を訪問して、要請・懇願を重ねているが現時点では、往診体制を確立する、医師派遣の見通しが付いていないのが現状である。	随時協議していく。
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。